

第61回 中国・四国地区高等学校PTA連合会大会

鳥取大会に参加して

令和元年7月12日、第61回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会鳥取大会が鳥取市とりぎん文化会館梨花ホールで開催されました。

会場が本県より遠方である事などから、ご参加いただけるPTA会員の皆様、学校関係の皆様には、何かとご不便をおかけしました。

しかしながら、四国で一番の遠方からの参加でありながら、開催県の鳥取県を除いて、広島県、岡山県に続く、100名近くのご参加をいただきましたこと、まずはお礼申し上げます。

鳥取県の西川会長の挨拶を皮切りに大会はスタートし、東京大学名誉教授の養老孟司氏の講演から始まりました。

AIやICT等、人工知能の発達や活用は経済的・効率的・合理的な観点から感情を持たずに処理がされることからやむを得ないことである。

都会はコミュニケーションよりも各々が頭で考える冷たい社会だと感じる。等等。

という内容でした。

人間の感情はAI等から言わせれば『ノイズ（雑音）』であるが、それがあからこそ人間である事、その『ノイズ（雑音）』が受け入れられていくのは都会ではなく、地方（田舎）であり、いろんなコミュニケーションで子育てをする環境がそこにある。

といった講演でなかったかと感じました。

この講演を拝聴した時、開会行事での鳥取県知事の来賓祝辞を思い浮かべました。

知事は、「鳥取には10の温泉地と砂丘があります。夜は明るくないので星がよく見えます。」と、都会に比べての「ないことの良さ」をアピールして会場を和まされていました。

昼食後は、岩見高等学校のジャズ演奏、鳥取湖陵高等学校の吟詠剣詞舞部の舞台、八頭高等学校書道部のパフォーマンスで始まり、その後3校からの研究協議が発表されました。





その中でも、3校目の鳥取東高等学校、健康生活部の「食育」への取り組みに私は大変興味を抱きました。

ただ3年間活動するのではなく、各学年で取り組む内容を決めPTA会員である保護者だけでなく、生徒をも巻き込んだ活動で、生徒自身にも関心を持たせるといったものでした。

健康で怪我をしない体づくりや卒業後の食生活を考えた取り組みの重要性を再認識する機会となりましたし、これは私たち大人も子供たちを見守っていくうえで、自らも健康でなくてはならないと感じ、これまでも多くの研究協議を拝聴しましたが、地域の特性を生かした活動ではないことから、大いに参考となりました。

「食」を通じての「自立」と「自律」の教育を強く感じました。

さて、ご参加いただいた皆様は今回の鳥取大会でお持ち帰りだけだった講演や研究協議はありましたか？

また、単P活動等でご報告いただけましたらありがたく思います。

来月8月には京都府で全国大会が開催されます。こちらにも多くのPTA会員の皆様にご参加下さると伺っております。

本当にありがとうございます。

また、今後高知県高P連でも、様々な視点からの研修活動を行っていきたいと考えており、少しでも今後のPTA活動、お子様への適切なアドバイスやアプローチの一端を担えればと考えております。

会長 小串和久

